



11月30日に行われた渡り納め

さよなら秋田大橋 たくさんの思い出とともに…

約七十年間、私たちの生活を支えてきた秋田大橋。たくさんの人の思い出やドラマも見守ってきました。

福島愛子さん(新屋元町)は、亡き夫との思い出を、秋田大橋の作文・随筆コンクールに投稿。その一文が、新屋側の橋のたもとにある詩碑に刻まれています。

「秋田大橋は、渡ったその時の気持ちをよみがえらせてくれる橋。結婚して夫の家に入るため、初めて渡った時のドキドキした感じ、夫を亡くし『これからどうしよう』と思いつつながら渡った時の悲しさなど、今でもよく覚えています」と福島さん。

惜しまれつつ、新しい橋にその役目をバトンタッチしましたが、大橋がつかない心の架け橋は、これからもずっと残り続けることでしょう。



詩碑の前に立つ福島愛子さん

「この橋を渡ればすぐ家だよ」
数十年前、私の顔を覗き込んでそう言った主人。
この言葉が今でも懐かしく心の奥に残っている。
それからは私にとって、秋田大橋は
喜怒哀楽を運ぶ架け橋であった。

今度は私が「お父さん、この橋を渡ればすぐ家だよ」と、
もう二度と元気な姿で渡ることの出来ない主人を思い、
声にならない声でつぶやいた。

これからの秋田大橋が、たくさんの人たちの
夢の架け橋となれるようにと祈らずにはいらなかった。

福島愛子(秋田市新屋)

広報クイズ 125



広報クイズは、毎月第4金曜日号に掲載しています。気ままなひとことをそえて、どしどしご応募ください。

11月のクイズの当選者は9面に掲載しています。

1 平成14年12月2日現在、秋田市の選挙人名簿に登録されている有権者は約何万人？

2 意欲にあふれ、独創的な10社の入居が決定！チャレンジオフィスあきた、月 日オープン！

答えは12月13日、27日号の「広報あきた」の記事中に！

応募方法

はがきに答えと住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を書いて、1月10日(金)(必着)まで、〒010-8560秋田市役所広報課へ。
☎(866)2034